

わくわく中国文化



—中国の世界遺産③—

Illustration by KOH_HSL(instagram)

中国の世界遺産③

長崎県の友好県省である中国福建省に5つあります。その中で、佐世保市の友好都市である廈門市にも1つの世界文化遺産があります。

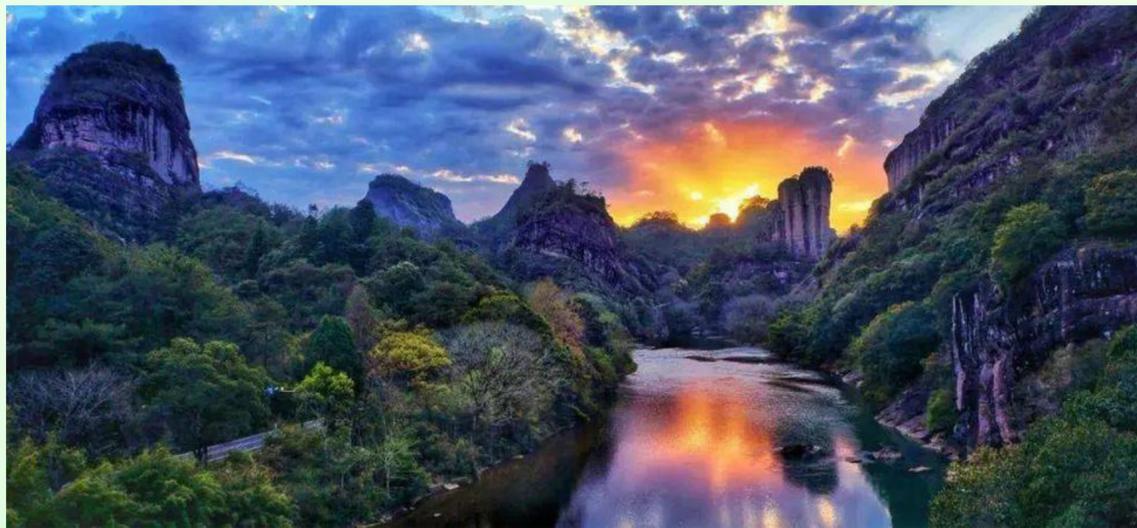
1)世界文化と自然遺産－武夷山

中国の福建省に位置している武夷山は、美しい風景を誇ることで知られています。この武夷山は、1999年に複合遺産としての価値を認められ、世界遺産に登録されました。

この辺りは、峡谷や溪流、「赤色砂岩」の岸壁などによって構成されている山岳地帯となっており、「武夷仙境」「奇秀甲東南」と称され、かつてより名勝地として有名な場所でした。

武夷山にあるスポットでは、「九曲溪」や「天遊峰」などが有名だと言われています。また、武夷山の周辺には、様々な動植物が生態系を営んでおり、珍しい種類の生物も生息していると言われています。地球の同緯度の地域と比べて、保護状態が最もよく、種の資源が最も豊かな生態系です。2527種の植物と約5000の野生動物を有します。

この地が、複合遺産としての価値を認められたのは、上述したような自然環境の中に、「道教寺院」や遺跡などが残されているためです。こうして現在にまで残されている、数々の人工物の存在によって、武夷山の自然と人との関係の歴史を窺い知ることができます。



福建

F U J I A N

中国の世界遺産③

2)福建土楼

福建土楼は、中国の福建省南西部の山岳地域に点在する土楼群です。「客家土楼」とも言います。ほとんどは12世紀から20世紀にかけて建てられています。土楼は大きな集合住宅で、円形や楕円形、方形など形は様々です。外観は一見すると要塞のようです。福建土楼は2008年、世界遺産に登録されました。

土楼とは、通常は外部立入禁止の大きな建物で、そこには客家（ハッカ）という宋の時代に北方から移動してきた移民の人々が一族で住んでいました。異民族に追われ、一族で南下してきた客家の人々は、結束して自分たちの身を守る必要がありました。そのため、180cm以上の厚い土壁と木の骨格から成り、3階建てや5階建てなどの大きな住宅を造り、そこに80家族以上が集まったのです。

外敵の侵入を防ぐため、入口は1つしか設けていません。また、その入り口も、鉄板で頑丈に補強された厚さ10センチから13センチの板戸で守られています。建物の最上階には、盗賊を防御するために、狭間が空けてあります。

中国の伝統的な住居に特有の考え方として、「外に閉じ内を開く」という概念に従って設計されています。土楼は中央に中庭があり、そこには共同の井戸や祖先を祀った廟があります。中庭を中心として、その周りに住居が建てられています。

対等な共同生活を送るために、間取りはすべて同じです。「ペントハウス」もなければ、「高層階」もありません。一般的に台所や井戸は共同で、中央の祖廟に向かって一族で住むことが、祖先崇拜と一族の統一と保護の象徴でもありました。

壁が厚く造られているので、矢や銃撃も防ぐことができました。外壁上層部には穴があり、そこから銃撃することも可能でした。

見どころ：振成楼、承啓楼、裕昌楼、田螺坑土楼群、二宜楼



福建

F U J I A N



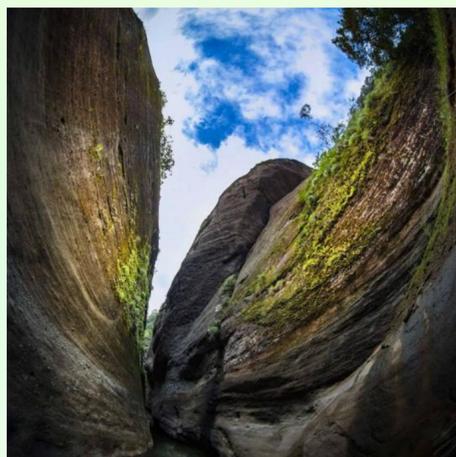
中国の世界遺産③

3) 泰寧中国丹霞

丹霞とは「夕焼け雲」を意味する言葉で、赤い堆積岩の独特な地形が特徴です。中国北部の甘肅省には赤・朱・黄色のストライプ模様が鮮やかな丹霞地形もあれば、中国東南部の福建省にはジュラ紀から新三紀に堆積して形成された地球進化のプロセスを示す丹霞地形もあります。

こうした自然による壮大な所産が、自然遺産としての価値を認められ、西の貴州省から東の浙江省にわたる6か所を「中国丹霞」と言う名称で、2010年に世界自然遺産に登録されました。6か所の中の1つである福建省西北部に位置する泰寧は、丹霞地形の中で最大規模を誇り、高さ100メートルを超す垂直に切り立った絶壁、無数の不思議な穴や洞窟がある断崖、典型的な赤い丹霞地形が特徴です。岩穴の中に造られ、太い1本の柱で支えられている甘露岩寺は、中国建築史上の一大傑作といわれています。

見どころ：甘露岩寺、寨下大峡谷など



4) コロンス島

鼓浪嶼（ころうしょ）は福建省廈門市思明区に浮かぶ島で、コロンス島とも呼ばれています。アヘン戦争後に締結された南京条約で開港した5港の1つでした。万国共同租界になり、外国人居留地として発展しました。島には領事館が置かれ、洋館や教会などもあります。コロンス島に住んでいた住民たちは1913年からピアノを習い始め、多くの人たちがピアノに熱意を注ぎ、当時島内はピアノや音楽の名門と呼ばれるような家庭を100戸余り有しました。また、600台余りのピアノがあり、中国で1位を占めています。ピアノ博物館や音楽学校やオーケストラなどもあるため、島は「ピアノの島」と呼ばれています。

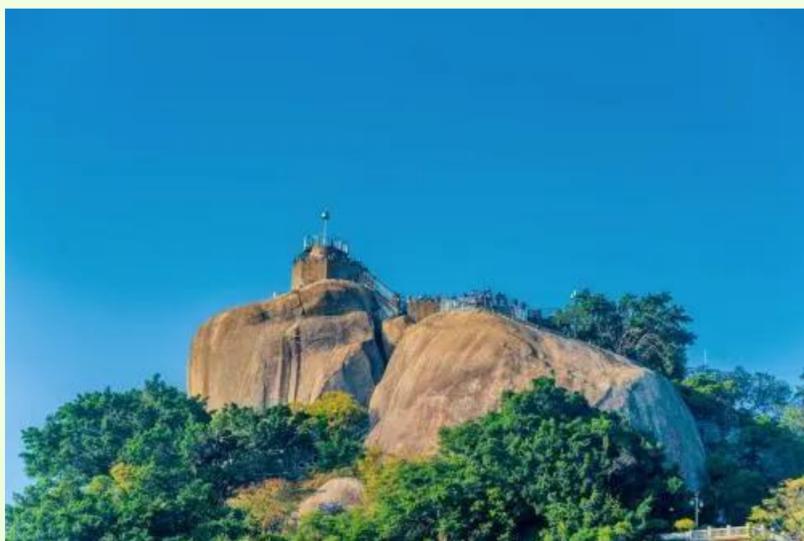
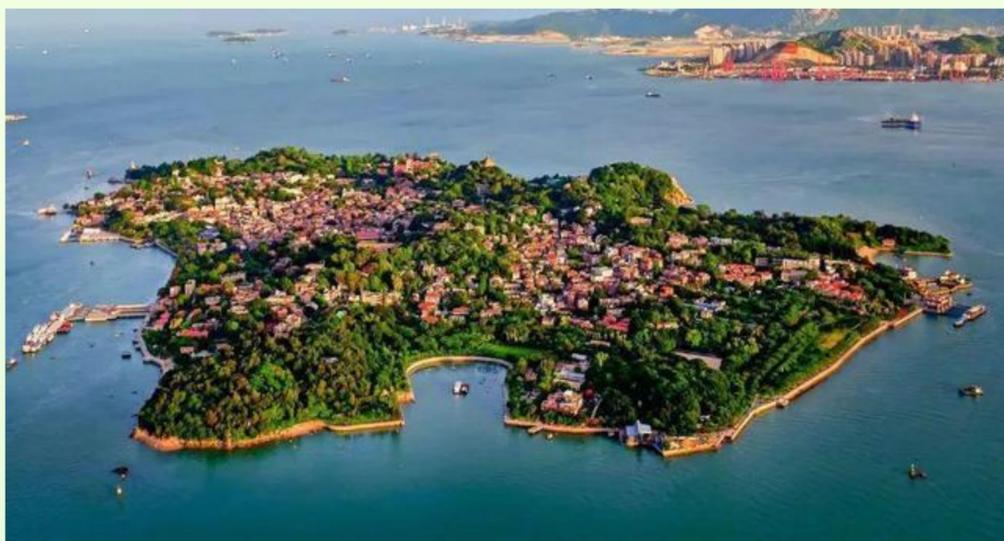
鼓浪嶼は中国と西洋文化の交流の結晶で、中国、東南アジア、ヨーロッパ諸国の文化が反映されており、他国の影響も受けつつ独自の建築文化を発達させたことが評価されました。見どころ：日光岩、菽莊花園、オルガン博物館など

福建

F U J I A N



中国の世界遺産③



5)泉州 宋・元時代の中国における世界のエンポリウム

エンポリウムとは、古代ギリシアの都市国家ポリスにおいて対外交易に用いられた場所のことです。

宋代から元代（10世紀から14世紀）にかけて東アジアと東南アジアの貿易ネットワークの中心地であった泉州市が2021年に世界遺産になりました。海洋の商業都市としての活気を示し、中国の内陸地域とのつながりを表しています。泉州はアジアで海上貿易が非常に重要な時期に栄えました。13世紀に記録されたマルコ・ポーロの「東方見聞録」にも記載がある都市で、海外では「ザイトン」と呼ばれていました。そして、14世紀にモロッコ人旅行者のイブン・バトゥータもこの町を訪れ、彼はここを「世界最大の港町」と記しました。

多くのアラブ商人が訪れたかのように、中国式のイスラム教施設を含め、様々な宗教の建築物も見られます。さらに巨大な灯台や橋など、海上貿易で繁栄した様子は現在でも残存しています。しかし、14世紀に明の時代になると、交易の中心地はさらに南方の厦門へと移行していったため、交易地としては衰退してしまいました。

見どころ：六勝塔、清浄寺、洛陽橋、安平橋、天后宮など



福建

F U J I A N

